

のうじくみあいほうじん ふぁーむあまだ だいひょうりじ ふくい かつみ  
**農事組合法人ファームあまだ 代表理事 福井 勝美(山口県山口市)**

| 品種         | 作付面積<br>(応募面積) | 単収<br>(玄米換算) | 地域の単収との差(地域の平均単収)<br><small>※作況補正後の地域の平均単収</small> |
|------------|----------------|--------------|--|
| みなちから、夢あおば | 約12.7ha        | 727kg/10a    | 188kg/10a(539kg/10a)                               |

**【経営概況】**

- ・平成22年1月設立
- ・理事4名、従業員1名、組合員協力者4名で主要作業を実施

**【作付品目】**

- 主食用米:  
きぬむすめ、ひとめぼれ、恋の予感等 20.7ha
- 飼料用米:みなちから、夢あおば 12.7ha
- 小麦、大豆、野菜 23.0ha

**【取組のきっかけ】**

- ・米価格の低落から、経営の安定を図るため、主食用米の一部を飼料用米生産に転換し、令和元年より生産に取り組む。
- ・作業性を考慮した作期分散及び立毛乾燥によるコスト削減が可能となり、併せて、もみ出荷となるため、もみ殻の処理が不要であることから、更なるコスト削減につながるため。

**【取組概要】**

- 令和元年「夢あおば」(1.2ha)で栽培を開始。令和2年から「みなちから」を追加し、令和4年は「みなちから」10.5ha、「夢あおば」2.3haの計12.7haで取り組む。今後はさらなる農地の集積を図り、作付拡大を検討。
- 移植において地域の慣行60株/坪(3~5本/株)で行っているが、「密苗」を採用したことにより、苗箱の大幅削減を実現(12箱/10a)。将来的には、主食用品種で実施している鉄コーティング直播栽培に移行することでコスト削減を進める予定。
- また、実需者から鶏糞堆肥の無償供給を受けることで資材費を低減、立毛乾燥することで乾燥コストを低減、実需者へもみ・フレコン出荷することで、もみ殻の処理費用・包装容器代の低減等、生産コスト低減の取組を実施。
- 雑草が多発する圃場において、乗用型除草機を活用し除草作業の軽減を図っている。
- 作業人員に限られるため、主食用米・飼料用米で、7品種を作付けし、きめ細やかな作業分散を実施。
- 栽培期間中、実需者主催の全生産者現地巡回視察(年2回)を活用し、施肥・病害へ適切に対処することで、生産性の向上を目指している。

